

## 大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R) 事後評価結果

COC+R 大学名	信州大学
事業名	地域基幹産業を再定義・創新する人材創出プログラム「ENGINE」

### 【総括評価】

S 計画を越えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

### 【コメント】

「広域（3県）での事業」「3つの国立大学の連携」としての事業推進の難しさを関係者の熱意と工夫によって克服しながら、本事業の目標の多くを達成し、北陸3県の経済圏を育む地方モデルとなっており、目的を十分に達成している。

#### <優れている点>

- ・3大学の教職員・学生の意識変容のみならず、企業が地域全体で人材を共有し育成する意識が醸成される取り組みとなっている。
- ・信州大学は幹事校として COC+R 事業の成果を体系化、コーディネーター機能とリカレント教育の重要性を提言し、一般社団法人の設立により事業の自走化を実現した。
- ・COC+R 事業で醸成した知見やネットワークを、R6 年度リカレント教育エコシステム構築支援事業として地域社会資本の形成に資する様々な取組みへと発展させることで、地域における大学の価値向上を図っている。
- ・ENGINE ルーブリックが効果的な共通言語となり、学生の主体的な能力開発につながっている。
- ・学生が事業に継続的にかかわる仕組みを構築したことで、学生の大学や地域に対する愛着度が向上している。

#### <今後、期待する点>

- ・未だアンコンシャス・バイアスが根強いとされる「地方」において、女性や外国ルーツ、多様な SOGI（性的指向・性自認）を有するロールモデルの発掘と登用に臨んでいただきたい。多様なあり方・生き方に学生たち（のみならず、教職員、社会人自身も）が触れることで、現状打破を生み出す創造性や突破志向といった風土・文化が「地方」にも醸成されることを期待している。